

令和2年度宅地建物取引士試験 解答速報

2020年12月27日20:30現在

問1	3	問11	4	問21	3	問31	3	問41	2
問2	1	問12	3	問22	4	問32	4	問42	1
問3	4	問13	3	問23	1	問33	4	問43	4
問4	2	問14	2	問24	3	問34	4	問44	2
問5	2	問15	2	問25	1	問35	3	問45	4
問6	1	問16	2	問26	2	問36	3	問46	4
問7	2	問17	1	問27	3	問37	1	問47	2
問8	3	問18	4	問28	1	問38	1	問48	2
問9	1	問19	1	問29	3	問39	1	問49	3
問10	4	問20	3	問30	2	問40	4	問50	3

TACが予想する合格基準点は、38±1点です。(12/27現在)

※次ページの講評もご覧ください。

※当解答速報はTAC独自の予想であり、解答を保証するものではありません。また、情報を更新する場合もございます。予めご了承ください。

※この解答速報の著作権はTAC株式会社のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC 宅建士講座

令和2年度（12月）宅地建物取引士試験講評

【全体】

●令和2年度10月18日実施の宅建士本試験（以下「10月試験」という）と比較して、民法等・宅建業法がやや難しくなったが、法令上の制限・その他関連知識が易しくなり、全体の合格ラインは同程度と思われる。

【民法等】

- 改正点に基づく出題が多く、過去問の頻出事項ではないものもあり、難しかったと思われる。
- 例年出題されている判決文型の出題はなかった。
- 組合せ問題が出題された。
- 民法等全体の合格ラインは、「10月試験」より下がるとと思われる。
- 合格ラインは8点程度。

【宅建業法】

- 難易度は、昨年よりも易しく、「10月試験」とほぼ同じ。
- 昨年の個数問題6問から、「10月試験」は4問に減少したが、今回の試験では5問となった。
- 難しい肢が出題されても、消去法で正解できた。
- 合格ラインは17点程度。

【法令上の制限】

- 配置は、国土利用計画法が、「10月試験」と同様、法令制限の最後に出題となった。
- 基本・応用論点を中心とした「主要6法令」からの出題であった。
- 土地区画整理法の選択肢には、過去問にない論点が散見されたが、解答は絞り込めたと思われる。
- 個数・組合せ問題は出題されなかった。
- 合格ラインは7点程度。

【その他関連知識】

●問23～25は、全体的には平易な問題であった。問23の正解肢も、「やむを得ない事情」の条件に悩まされた受験生もいたかもしれないが他の肢の内容より、正答の絞り込みは容易であり、正答率は高いものとする。確実に2問は正解

したい。

●問 46～50 は、平易な問題が多く、点数をしっかりと獲得したい。しっかり復習をして準備していれば5点満点も充分狙える出題であった。

●8問トータルでみると、「10月試験」と比較して点数は取りやすかった。

●合格ラインは7点程度。

以上